大学で養成される日本語教育人材
ー広島大学を例としてー

広島大学大学院教育学研究科
日本語教育学講座
永田　良太

養成する人材像

「日本語教員養成の新たな教育内容」に関する基礎的な知識，能力，技能を体系的に履修し，理論・実践の両面を兼ね備えた自己研修型日本語教員を養成する。

日本語教育主専攻プログラム詳述書より

体系的な知識・技能の習得

- １年次：教養科目（「語学」を含む），必修科目「日本語教育学基礎論」（基礎的で幅広い知識）

- ２年次：専門基礎科目
日本語教員養成に必要な３領域（「社会・文化・地域」，「教育」，「言語」）を六つの科目群に分けて科目を構成。18科目の中から14単位以上を取得

体系的な知識・技能の習得

- ３年次：専門科目
  - ・21科目の中から30単位以上を取得
  - ・演習科目を通した分析・考察能力や実践的技能の習得

- ４年次：教育実習を通した実践力の育成と卒業研究を通した課題発見・探究力の育成

日本語教育実習

- それまでに身につけた専門的な知識・技能を実践とつなげる。
- 海外実習（３年生後期）・国内実習（４年前期）

【海外実習のねらい】

授業づくりや指導技術の基本を学ぶとともに，海外の日本語教育の現場（学習者や教材，指導法など）についての理解を深める。

日本語教育実習

【国内実習のねらい】

海外実習で学んだ授業づくりや指導技術の基本を定着させるとともに自己研修につなげるための観点と姿勢を身につける。

【特長】

- 観察実習の時間が多い
- 複数の教員とティーチングアシスタントによる指導
- 授業の振り返りの時間が多い

課外活動

【学生による日本語ボランティア
クラスの運営】

- 授業観察，教案作成，模擬授業，実践，授業検討会を行う。
- （日本語教育実習の経験をもとに）上級生が下級生を指導

進路

- 日本語教員，大学院進学，学校教員，公務員，一般就職

これからの検討課題

- 大学における教員養成が教育現場にどのようにつながっているか。
- 大学における教員養成を大学院とどのように接続させるか。